

内閣府国民生活局総務課  
調査室 島田、橘  
(電話：03-3581-9369)

平成19年8月24日  
内閣府国民生活局総務課調査室

平成18年度国民生活モニター調査結果（概要）

## （町内会・自治会等の地域のつながりに関する調査）

### 1. 調査目的

住民相互の連絡、環境の整備、集会施設の維持管理等良好な地域社会の維持及び形成に資する地域的な共同活動を行うことを目的として、町又は字の区域その他市町村内の一定の区域に住所を有する者の地縁に基づいて形成された、いわゆる「町内会・自治会」の活動をはじめ、地域のつながりの現状とそれに対する住民の意識について、様々な角度から把握し、また分析することで、今後の施策展開の基礎資料として活用するために、調査を行った。

### 2. 調査期間

平成19年1月19日（金）～2月1日（木）

### 3. 調査の方法と対象者

○全国の国民生活モニター：2,000人に対するアンケート調査

郵送モニター（郵送調査） 1,350名

電子モニター（インターネット調査） 650名

○有効回収数：1,834名（郵送モニター：1,298名、電子モニター：536名）

○有効回収率：91.7%（郵送モニター：96.1%、電子モニター：82.5%）

#### 4. 回答者の属性

##### (1) 性別

(%)

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. 男性 | (23.2) |
| 2. 女性 | (76.5) |
| 無回答   | (0.3)  |

##### (2) 年齢

(%)

- |           |        |
|-----------|--------|
| 2. 20～29歳 | (4.6)  |
| 3. 30～39歳 | (19.6) |
| 4. 40～49歳 | (27.3) |
| 5. 50～59歳 | (22.1) |
| 6. 60～69歳 | (18.2) |
| 7. 70歳以上  | (8.0)  |
| 無回答       | (0.2)  |

##### (3) 職業

(%)

- |                                |        |
|--------------------------------|--------|
| 1. 正社員（公務員を含む）                 | (18.0) |
| 2. パートタイム従業者、アルバイトなど正社員以外の被雇用者 | (24.5) |
| 3. 会社、団体などの役員                  | (1.7)  |
| 4. 自営業（農林漁業、商工サービス業、自由業などを含む）  | (7.0)  |
| 5. 専業主婦・主夫                     | (35.2) |
| 6. 学生                          | (0.5)  |
| 7. 無職（専業主婦・主夫を除く）              | (10.1) |
| 8. その他（具体的に： )                 | (2.7)  |
| 無回答                            | (0.3)  |

## 5. 調査結果の概要

### (1) 町内会・自治会がある地域は9割以上

町内会・自治会があると回答した人は、9割を超えている。また、町内会・自治会の区域としては小学校区より狭いという回答が7割を超え、平均すると約600世帯、9割弱の加入率である。なお、回答者世帯の9割超が実際に町内会・自治会に加入している。

### (2) 町内会・自治会の活動は多岐に及ぶ

町内会・自治会が担っている役割に挙げられたものとしては、「行事案内、会報配布等の住民相互の連絡」が9割超となったほか、「市区町村からの情報の連絡」と「盆踊り、お祭り」が7割を超えた。その他にも多様な活動が役割に挙げられており、町内会・自治会の活動は多岐にわたっている。

### (3) 地域住民の地縁によって自主的に設立された団体がある地域は過半数

地域に求められる様々な機能を果たすため、町内会・自治会とは別に、地域住民の地縁によって自主的に設立された団体があると回答した人は、5割超である。具体的には、婦人会、子ども会、消防団を挙げる人が多い。一方で、あるかないか「わからない」と回答した人も4分の1程度いる。

### (4) 隣近所で協力して行っていることがある人は3割弱

町内会・自治会等との活動とは関係なく、隣近所で協力し合っている活動がある人は、3割弱である。

### (5) 最近、地域で困ったことやトラブルが生じている人は3割

最近、地域で困ったことやトラブルが生じている人は3割である。具体的には、地域の安全に懸念を示す回答が多い。

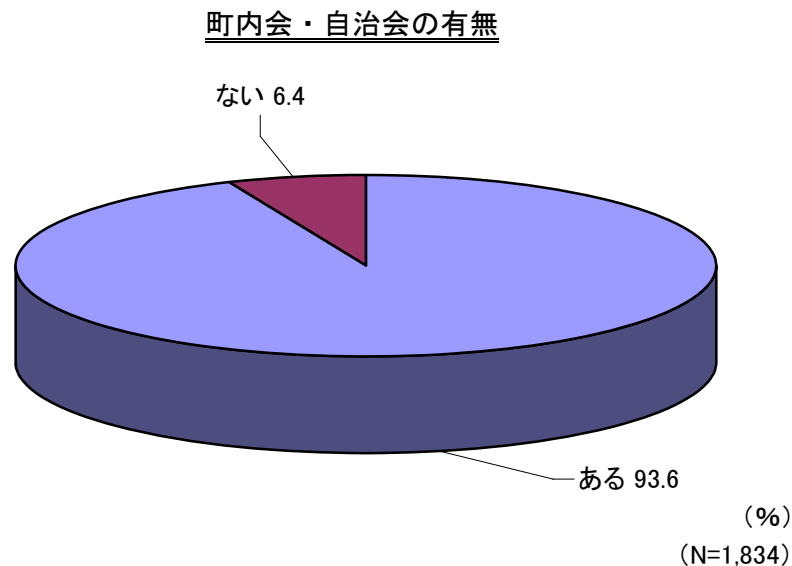
### (6) インターネットを活用した地域の共同活動があるのは3%未満

住民相互の連絡、環境の整備、集会施設の管理等の地域的な共同活動のため、インターネットを活用した取組があると回答した人は、3%未満である。地域活動に関するインターネットの活用は低調である。

## 6. 質問と回答

【全ての方にお聞きします。】

問1 あなたがお住まいの地域には、住民相互の連絡、環境の整備、集会施設の維持管理等良好な地域社会の維持及び形成に資する地域的な共同活動を行うことを目的として、町又は字の区域その他市町村内の一定の区域に住所を有する者の地縁に基づいて形成された団体（町内会・自治会・町会等地域によって様々な呼称があります。以下では「町内会・自治会」といいます。）はありますか。（○は1つだけ）

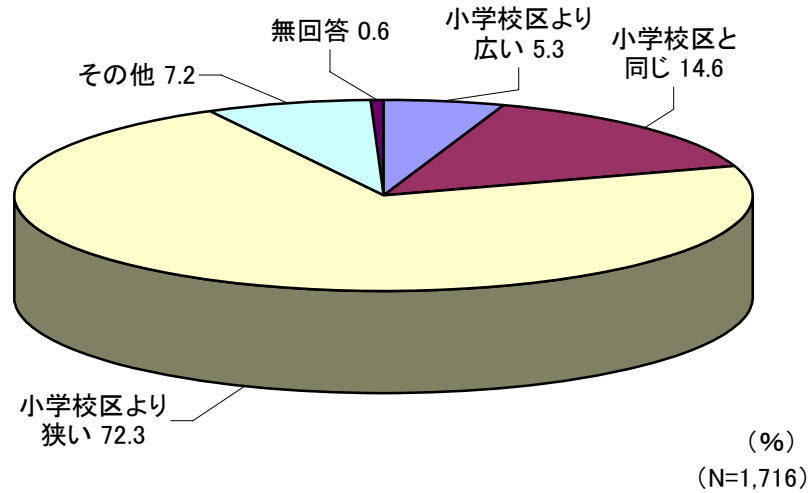


住まいの地域に「町内会・自治会」があるか尋ねたところ、「ある」と回答した人の割合が93.6%、「ない」と回答した人の割合が6.4%となっている。

【問1で「1. ある」と答えた方にお聞きします。】

付問1-1 その町内会・自治会の区域は、おおむねどのくらいの広さですか。  
（○は1つだけ）

### 町内会・自治会の区域の広さ



住まいの地域に町内会・自治会があると回答した人に対して、その区域の広さを尋ねたところ、「小学校区より広い」が 5.3%、「小学校区と同じ」が 14.6%、「小学校区より狭い」は 72.3%となっている。

付問 1 - 2 その町内会・自治会の加入世帯数とおおよその加入率をご記入ください。

### 町内会・自治会の世帯数と加入率（平均）

加入世帯数： <u>平均 611.9世帯</u>	おおよその加入率： <u>平均 89.2 %</u>
--------------------------	----------------------------

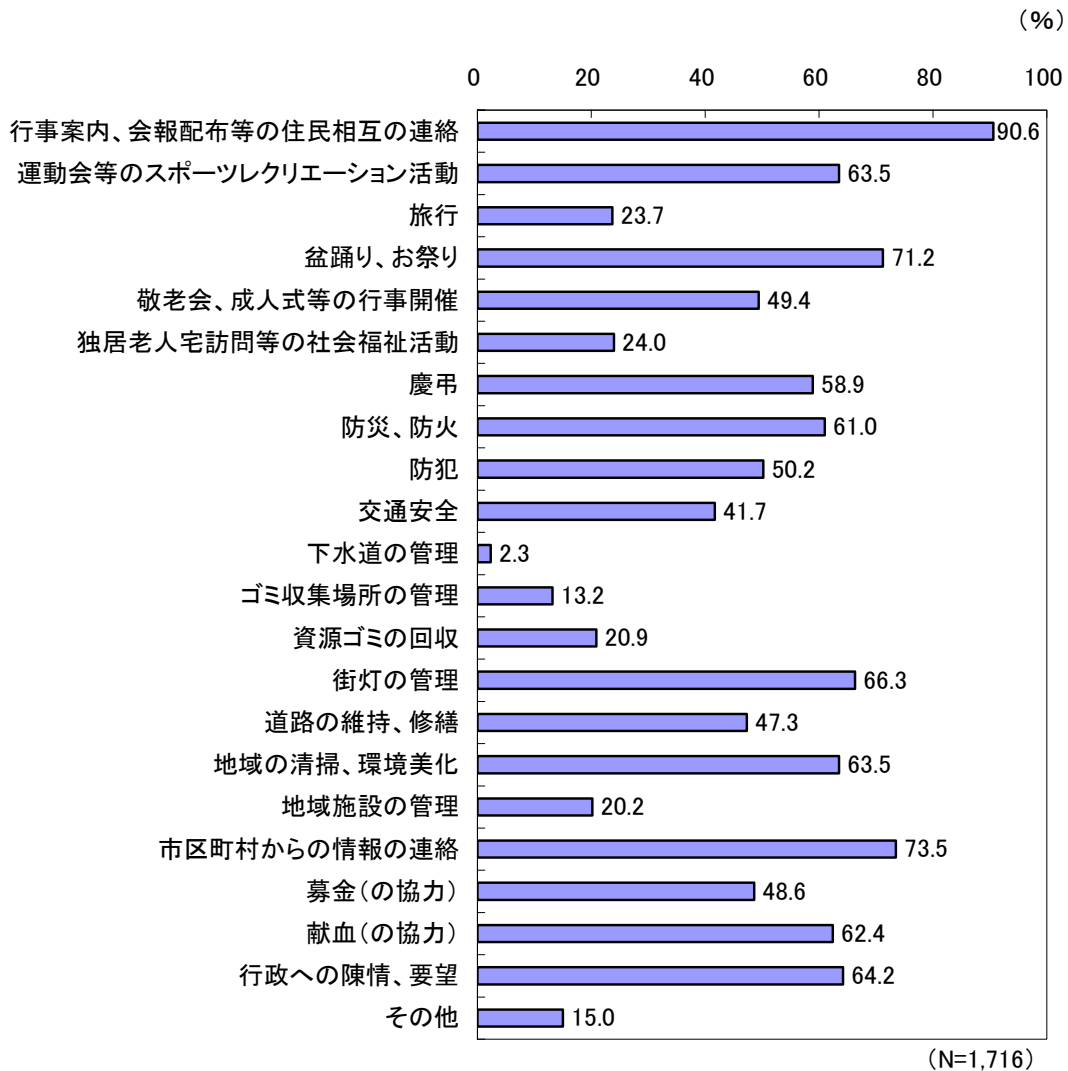
(N=1,716)

※最終ページに分布を記載

住まいの地域に町内会・自治会があると回答した人に対して、加入世帯数とおおよその加入率を尋ねたところ、平均で 611.9 世帯、89.2%となっている。

付問 1-3 その町内会・自治会が行っている役割・機能には、どのようなものがありますか。次の中から当てはまるものに○を付けてください。(○はいくつでも)

町内会・自治会の役割・機能



住まいの地域に町内会・自治会があると回答した人に対して、その町内会・自治会が担っている役割について尋ねたところ、「行事案内、会報配布等の住民相互の連絡」(90.6%)、「市区町村からの情報の連絡」(73.5%)、「盆踊り、お祭り」(71.2%)が上位3つとなっている。

付問 1－4 その町内会・自治会が問 1－3 で回答した役割・機能を果たすこと  
によって、あなたが助かっていると思うことについて、具体的に  
記入してください。

～助かっていると思うことの具体的回答例～

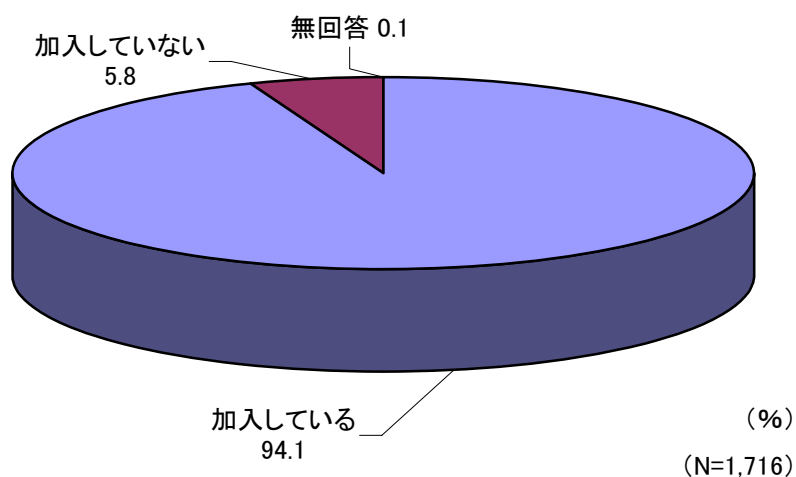
- 市からの情報の連絡を受け大いに助かっている。街灯の保守・新設などの維持管理をしてくれるので防犯上助かっている。敬老会、独居老人宅訪問をして下さるので安心して居る。弔事には役員と近隣の人達による奉仕があるので心強い。地域の清掃・美化ゴミ収集場所の管理と助言があるので町内は美しさが保たれている。スポーツ行事祭典行事等が適切に行われ地域の連帯相互扶助が高まっている。(70代、男性)
- 参加することによって皆と顔見知りになり話しをしたりすることによって、地域の防犯につながっているように思います。(40代、女性)
- 子供が参加できる祭りや、家族全員が参加できる忘年会など無料なので、引越してきた時近所の親交を深めるのに役立った。(30代、女性)
- 引っ越して来てすぐ町会の班長さんにゴミの出し方などおしえて頂き、近くに知人がいなかったのをきっかけに近所付き会いをすることができた。何かあった時にはお互い助け合いができるので心強い。(30代、女性)
- ゴミ収集所の管理、街灯の管理等が行われているので、整然とした街並が保たれていると思う。カーブミラーの設置、道路上の消火器等の意見も取り入れてもらいやすいと感じる。(40代、女性)
- 町内会には自動的に入っているが、子どものいない世帯なので、今のところ町内会の良さ、役割を実感していない。将来、子どもが生まれ育てるときがきたら、きっと積極的に関わっていく場面もあると思う。(30代、女性)
- 町内の行事に参加することで、子供たちに人とのかかわりの場を与えられる。多少の上下関係、助け合いを学べる、あるいは、見ることができ、子供にとってそれは重要なことだと思う。近所の人、少し離れた近くの家の人とも、あいさつだけのおつき合いでなく、もう少し深くつき合えるような、間柄になれる。子供の遊び相手も見つかる。子供会や町内行事から、日本の習慣、お祭り事(どんどん焼き・もちつき・豆まき・夏まつり・みこし・運動会など)などにふれ合える。誰が、近くに住んでいるか分かる。自分たちの事も

知ってもらえる。(30代、女性)

- 私の住んでいる地区では全て町内会に所属します。その中で環境や自主防災、ゴミ管理などを当番制で行っているの、誰もが地域の為の活動をしていることになります。みんなが公平に役割を果たすことで、当然のように美化が保たれていることがありがたく思います。(40代、女性)
- 本来行政やボランティアの人達でやればよいと思うことを、町内会、自治会を通して強制される事が迷惑で、あまり助かっているとは思わない。(50代、女性)
- 知りたい情報はほとんど手に入れることが出来るので、助かっている。学期毎に学区の小学校の様子も回覧板で回るので、小学生がいなくても行事が把握出来る。(50代、女性)
- 世代間のつながりができ、土地を知らない私(結婚で見ず知らずの土地や人々の中に、入ってきた)にとって、古い風習やしきたりを年輩の方々から教わり、日常の生活に生かせる。次世代を担う子達に、地域の行事(祭りや寺のこと、学校のこと等)を通して、郷土に愛着を持って地域文化を継承できる。(40代、女性)
- 田舎の小さな集落ですから大人から子供まで何事も、協力し、助け合っ暮らせるのですごく安心感がもてる。孫達も都会に出て行っても、やはりふる里の良さは一生忘れる事がないだろう。町内会の役割は暮らしの中で最も重要、協同の精神を身につけるために。(60代、女性)
- 私は子持ちなので、子供のレクリエーション等開いてくれることで周りのお母さん達とコミュニケーションがとれるので助かっています。(30代、女性)
- 助かっている事はありません。運動会は廃止して欲しいです。毎年、選手決めではもめていて、むりやり出場させられたりして、ケガをしたりする事もありました。自治会も本当に必要なのかなと思います。(30代、女性)
- 町内がとてもまとまって、レクリエーション・運動会など楽しくさせてもらっている。月1回の町内清掃により、一時でも道路がきれい。一人暮らし高齢者の見守りとか、愛の一皿運動で老人に淋しい思いをさせないように努力・協力しているが、やっている人も心豊かになれる。とかく中学生ともなると大人とは口をきかないが、あいさつ運動ですがすがしいあいさつをしてくれる。子供達も、下校時、見守り隊(ボランティア)があり、安心である。(60代、女性)

付問 1-5 あなたの世帯では、町内会・自治会に加入していますか。(〇は1つだけ)

回答者世帯の町内会・自治会への加入率

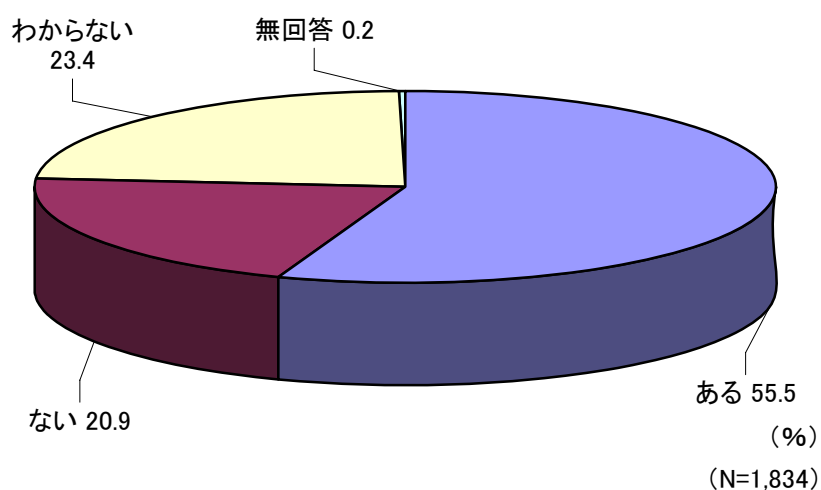


住まいの地域に町内会・自治会があると回答した人に対して、実際に町内会・自治会に加入しているか尋ねたところ、「加入している」が 94.1%、「加入していない」が 5.8%となっている。

【全ての方にお聞きします。】

問2 あなたがお住まいの地域には、付問1－3の選択肢に掲げたような役割・機能を果たすため、町内会・自治会とは別に地域住民の地縁によって自主的に設立された組織・団体（例：青年団、婦人会、自主防災組織等）はありますか。（○は1つだけ）

町内会・自治会以外の地縁組織の有無



住まいの地域に、町内会・自治会とは別に地域住民の地縁によって自主的に設立された組織・団体があるか尋ねたところ、「ある」が55.5%、「ない」が20.9%、「わからない」が23.4%となっている。

【問2で「1. ある」と答えた方にお聞きします。】

付問2－1 その団体の活動内容や活動区域をなるべく具体的に記入してください。  
（例：お祭りの運営を行う青年団が小学校区の範囲で活動している）

～活動内容や活動区域の具体的回答例～

○婦人会が小学校区の範囲で活動していて、老人ホームの掃除等をしている。

7月～11月の間衛生組合が地区の草取り下水道掃除を指揮する。(50代、女性)

○青少年育成会等のグループが、小学校区の範囲で地域の廃品回収、道路の清

- 掃等を行っている。(50代、男性)
- 小中のPTA活動をしていた人のOB達が「おやじの会」を設立して各地域や学校行事に参加し活動している。(40代、女性)
  - 小学校区ごとに小学校のPTA会員である地域委員や子ども会役員が町会役員と協力し合って、お祭りの運営、市民体育館の運営、交通安全推進、防火訓練等を行っている。(40代、女性)
  - 小学校区を半分位に分けた範囲毎に婦人会が組織され、年間10回程度の学級会を開催。研修旅行や学習会（料理・スポーツ・華道・詩吟等）で会員の親睦・コミュニケーションを深めている。(60代、女性)
  - 自主防災組織がボランティアを募り、年末の「火の用心」見まわり、夏休みの夜の非行防止の見まわりを小学校区内の範囲で活動している。(50代、女性)
  - 1つの小学校に通う地域はいくつかの区によりなり立っていますが、その区ごとに子供会があります。子供会と学校のPTAが連携して学校の運動会をつくったり、資源回収作業を行ったりする場合と、子供会独自でお祭りや夏の合宿などのレクリエーションを企画する場合があります。(30代、女性)
  - 地域内の18才～33才までの男子による消防団組織がある。(60代、女性)
  - 自主防災組織があり、防災用具の管理や防災訓練を実施している。男性より家にいる時間の長い婦人をメインに消火ホースのつなぎ方の説明等も行う。(30代、女性)
  - 青年団の消防団は歴史が長い。最近ではクリスマスに団員がサンタクロースになって、希望者の家庭の幼児に預かったプレゼントを配り、地域のコミュニケーションをはかっている。シルバーボランティアが小学校登校時に通学路の要所でお揃いのジャンパーを着て児童を誘導している。(60代、女性)
  - 地域・学校・育友会が連携協力して、子どもたちが文化、スポーツなどの楽しい体験を重ねることで、豊かな心や、生きる力が身に付くようにと「土曜チャレンジスクール」を実施している。伝統的な行事体験として子どもみこし、餅つき、鏡開きなども実施している。(70代、女性)
  - 老人会が、町内会と同じ範囲でゲートボールやグランドゴルフを楽しんでいる。育成会活動に参加し、子どもたちにわのわリングを教えたり、入学する子どもたちに、手作りプレゼントを贈る。(30代、女性)
  - 行政区単位で組織されていた婦人会が世代交代や役員の引受け手がないことなどが原因で20年ほど前から衰退し、頂点の町婦人会は消滅した。直後形を

変えて有志の20名位で（考える婦人の会）を立ち上げた。婦人に限らず町民を対象に、住みよい環境づくりや、社会全般の諸問題を取りあげ問題意識をもち、学習して意見交換をしている。テーマによって新聞社、企業、弁護士、大学教授の講話を聞いたりしている。集いの内容は広報誌に掲載して、参加できなかった町民へ知らせている。集いには退職した男性や、教育長の参加もある。行政への要望の場ともなっている。（70代、女性）

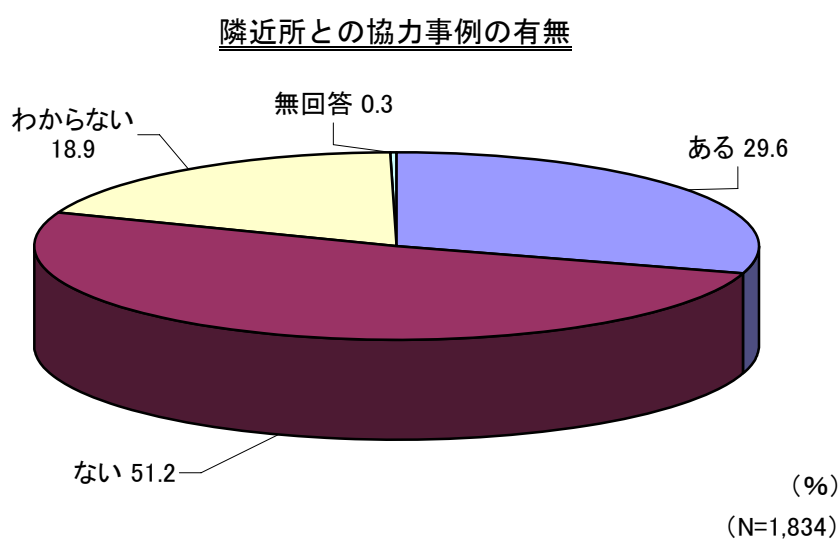
○いきいきサロンを立ち上げ、家から出ない高齢者を連れ出し、食事会、小物作りなどの活動を行い喜ばれている（認知症の予防、病院へ行かないための予防）。高齢者や一人暮らしの方達へ声かけを行い、元気を確かめ合っている。（70代、女性）

○一人暮らし高齢者を集め毎月1回「いきいきサロン」を計画し、毎回朝10時から12時まで、健康管理センターより来てもらい血压測定や健康についての話をしてもらう。その後、菓子作り、室内ボーリング、室内風船遊び、七夕かざり、折紙遊びなどを実施。高齢者の方々が目を生き生きさせて笑い、会話を楽しんでいる。（60代、女性）

○もみじ会として、ボランティア活動をしております。地域の高齢者を集め、毎週火曜日9時～15時まで食事を出し1日中老人と遊ぶこと（ミニ、ディサービスみたいな事）をボランティアで行っております。（50代、女性）

【全ての方にお聞きします。】

問3 あなたがお住まいの地域には、町内会・自治会や問2の組織・団体とは関係なく、隣近所（いわゆる「向こう三軒両隣」の範囲）で協力して、付問1－3の選択肢に掲げたようなことを行っている事例はありますか。  
(○は1つだけ)



住まいの地域で、隣近所（向こう三軒両隣）の人々と協力して行っている事例があるか尋ねたところ、「ある」が29.6%、「ない」が51.2%、「わからない」が18.9%となっている。

【問3で「1. ある」と答えた方にお聞きします。】

付問3－1 協力している内容についてなるべく具体的に記入してください。  
(例：同じ私道を使っている5軒の世帯が当番制で雪かきを行っている)

～協力内容の具体的回答例～

- 近隣10世帯程度で水道組合を運営している。(70代、男性)
- 街路樹の落葉掃き、雪かき（減多に降らないが）等、環境整備に対する住民意識が高く、自主的に周辺の公道の清掃を行っている。公園や緑地帯の手入

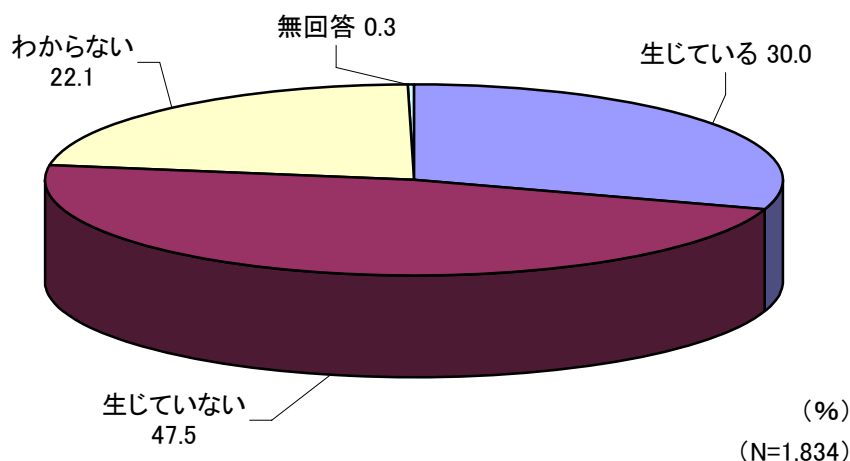
れも、近隣住民や利用者が協力している。かつて、第2の故郷として、当地に移り住んだ人々が、社会や地域の盛衰を見つめながら、自らをも育てているからでしょうか。窮屈な程に踏み込まず、程良い距離を計りながら、必要な時には手を差し延べ合える環境を作っている気がします。(50代、女性)

- 隣保班（16軒）で毎年1月の第二日曜日に「道祖神」を行い、あまり大きくない竹やわらで作った道祖神やぐらをつくり門松やだるま、古い御札などもやします。班長が酒かすで甘酒をつくり集まります。(60代、女性)
- マンションの階段を共有している10軒の世帯で日曜毎に清掃当番を決めて交代で行っている。年に数回、階段の主婦だけで昼食会を開いておしゃべりをし、各世帯の近況情報を交換しあっている。(60代、女性)
- 道路をはさんで両側7軒で慶弔費の金額を決めて実行している。また、葬儀の際はお互いに受付等手伝う。(60代、女性)
- 同じ水道を使っている8軒の世帯が当番制で、水道の管理をしている。(30代、女性)
- 農家の場合、農繁期には農作業を協力し合っている。例えばビニールハウスのビニール張り。(2～3軒)そのグループで旅行を。更に親睦を深めている。(70代、女性)
- 財政難の折、地域の狭い道路までは、行政でなかなか管理して頂けないので、その道を使うことのある周囲の人が出て労働奉仕。(50代、女性)

【全ての方にお聞きします。】

問4 あなたがお住まいの地域全体として、最近、困ったことやトラブルなどが生じていますか。次の中から当てはまるものに○を付けて下さい。(○は1つだけ)

地域のトラブル等の最近の発生状況



住まいの地域全体で、最近、困ったことやトラブルが生じていないか尋ねたところ、「生じている」が30.0%、「生じていない」が47.5%、「わからない」が22.1%となっている。

【問4で「1. 生じている」と答えた方にお聞きします。】

付問4-1 その困ったことやトラブルはどのようなことですか。その内容や、解決方法について具体的に記入してください。

(例：地域に子どもが少なくなり下校時は一人となることが多くなったため、犯罪に巻き込まれる可能性が高くなった。町内会・学校・PTAで話し合っ、下校時に定年退職した住民が中心になって防犯パトロールを交代で行うことにした)

～困ったことやトラブルの具体的回答例～

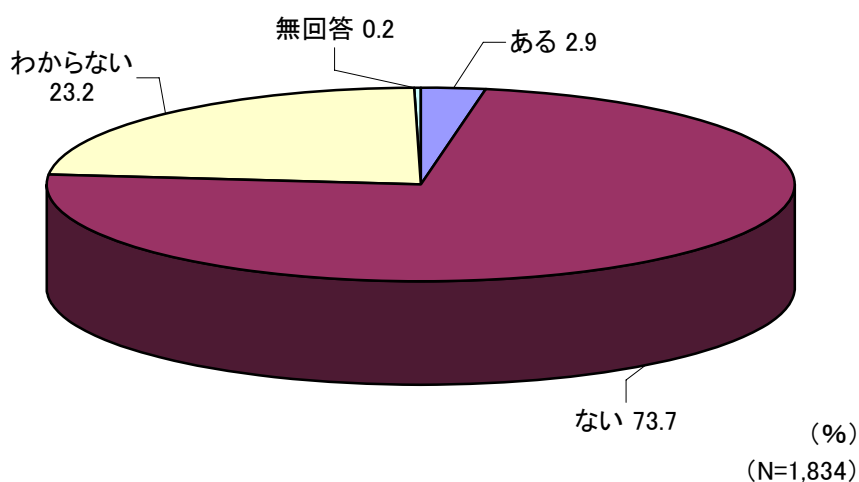
○マンション、アパート等に入居している主に1人暮らしの方の入会率が低く、地域としての連帯、特に非常災害発生を考えての防災組織や活動に支障があることを心配している。このために1人暮らし（特に単身者で結婚前の人）

- の方からも防犯灯（街灯）の維持費やゴミ収集場所の維持美化等のために協力金月100円を徴収することにより加入率を高めている。（70代、男性）
- 小学校、中学校が統合になり通学距離が遠くなったため自転車通学になりました。私たちの町内は大通りのため、老人会などが中心になり学校、PTA、町内会と協力の上、登校下校の見守りを行っています。（40代、女性）
  - 最近、子供たちが被害者になるケースが多く報告されています。当地区でも、子供の登下校時におけるパトロール、また、地域の高齢者を「みまもる」という主旨を踏まえ、町内会・小学校PTA・老人会・防犯・交通安全の関係者を含むコミュニティセンターを中心に「安全安心みまもりたい」を立ち上げました。空巢、車上ねらい、駐車違反、自転車の無灯火なども多く、防止するために、多くのパトロール員やボランティアの方々が現在活動中です。防犯支部を主体とした夜間パトロール、犯罪防止にも結びつく広報活動もしています。（60代、女性）
  - 小学生の一人下校は禁止となり、町区別で集団（登校は従来通り集団）下校となり、近くまで先生が送り、地域の人が迎えるという体制になった。地域の方が結成された「パトロール隊」の関係者は自転車に「パトロール隊」という看板をかごに付けている。（40代、女性）
  - 合併により敬老会、盆おどり、運動会等の行事がなくなり、益々地区民の交流がなくなり地域全体の元気がなくなって困っています。婦人消防隊で年末に消火器の使い方等の講習が合併前に行われていましたが、現在はありません。本当に合併は大混乱をひきおこしています。（50代、女性）
  - 地域に子供が少なくなり、子供達だけでするイベント（昔の行事）ができなくなっている。昔からの風習を守りたいのですが、人数の減少で、大人の力が入りすぎ、子供自身の活動でなくなりつつある。（60代、女性）
  - 学校、地域、民生委員、老人会が一体となった見守隊を立上げ、7:00~8:00の間に登校見守り、学年に応じて異なる下校時間に合わせ14:20、15:20、16:20に下校見守りを毎日行っている（60代、女性）。

【全ての方にお聞きします。】

問5 あなたの地域では、住民相互の連絡、環境の整備、集会施設の管理等の地域的な共同活動のため、インターネットを活用した取り組みがありますか。(○は1つだけ)

地域の共同活動に係るインターネットを活用した取組の有無



【問5で「1. ある」と答えた方にお聞きします。】

付問5-1 インターネットを活用した取り組みはどのようなものですか。その内容や、良かった点等について具体的に記入してください。(例：町内会会員のSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)があり、会員によるこの町の情報がとても便利である。ここから新しい友人も生まれた)

～インターネットを活用した取組の具体的回答例～

- 電子町内モデルに加入しているので、開くことによって町内、学区のことがよく分ります。(60代、女性)
- 地域、防災情報をEメールで受けている。(60代、男性)
- 小学校、学区地域からの緊急時連絡がメール受信できます。子供への迎えなど緊急対応がとれるのは良い点です。(40代、男性)
- 携帯メールに町の防災メールが入る。(30代、女性)

○町内の町おこし、イベント開催の知らせを出している。地域の良い所、力を入れている所を載せている。(20代、女性)

【全ての方にお聞きします。】

問6 地域のつながりが希薄化していると言われていています。そのような中であなたは、地域のつながりを今後深めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。必要と思われることについて、具体的に記入してください。

～地域のつながりを深めていくために必要なことの具体的な回答例～

- 年齢を越える活動をするとうまいと思う。小学校の発表会に、地域の老人とか、両親以外の人を招待すると、お互いの交流になると思います。(50代、女性)
- 障害を持った方との交流をもっと深めた方がいいと思います。災害対策（何かあったら手助けと必要な方の理解）や防犯対策（消費者トラブルや盗難など）など、どこにどういふ人が住んでいるか理解しあい協力しあうことが必要だと思います。(40代、女性)
- 地域の行事に参加することを、いろいろな人たちと話したり行動したりすることにより、いろいろなつながりが出てきます。年上の人達の話はとても勉強になりあったかい気持ちになります。とにかく行事に参加してみることはないかと思います。(40代、女性)
- 地域の人が集う公園などは、大事だと思います。私は結婚して市営住宅に入ったので、まわりは誰も知りませんでした。でも、子供が生まれて、近くの公園に行くようになり、そこに行くまでの散歩でご近所の人たちと知り合いになりました。自分の親よりも上の世代の方々がほとんどだったため、子供もかわいがっていただき、お茶をごちそうになったり、旅行のお土産をおすそわけしたりするようになりました。核家族化がすすみ、経験豊富なおじいさんおばあさんたちと、子供たち、親たちとの接点がほとんどなくなってきています。それを無くすためには、公園や集会所（若い人には子育てセンター）などをもっと積極的に活用すれば良いのではないかと思います。(30代、女性)
- 文化、教育、経済などが集中している大都市に人が移動してしまうことで地域の世代間のつながりが途切れてしまっていると思います。また、これだけ生活様式や価値感が多様化してしまうと、共通の話題や行事などでもない限りつながりを持つ機会は少なくなっている気がします。私の住む地域では都会に比べて地域のつながりはまだまだ深い方だと思いますが、世代や価値観が異なっても、必要な文化や教育を大人にも子供にも伝えていく機会や工夫

が必要ではないかと思います。(30代、女性)

○世代を越えた交流が必要なのではないかと思います。核家族が増え、子供の数も減っています。まだ小さな子供がいますが、昔にくらべて生活は便利になりましたが、「手」が足りないと感じます。昔は、家族も多く、隣近所で子供がごはんを食べたり、かみなりおやじ、がんこおやじ等こわ〜いおじさんがいて、悪い事をすると怒られたりしましたよね。今は知らない子には、こちらが怖くて注意するのもためらうこともあります。だから、知っている人の間でできるといいと思うのです。顔見知りを増やす工夫から。地元に住んでいる人はいいのですが、転勤族等途中から住んでいる人の対策というか、例えば、4月転入者を招いての集まり等があると、地域にも早くなじみそうです。(40代、女性)

○私は昨年まで小学校のPTA役員をしていました。当初は仕方なく引き受けたわけですが、実際に続けてみるとこれがなかなか面白かったのです。まずPTA活動のため学校を訪れると「あ、〇〇君のお母さんだ！」等と子ども達が声をかけてきます。そこは小学生、結構かわいいんです。お陰で自分の子だけでなく、学校の子ども達みんなに親しみを持つようになりました。また、学校行事の裏方として様々な活動に参加するうちに、先生方も含めたくさんの地域の方々と知り合うことができました。振り返ってみれば、どれもお金では買えない貴重な体験でした。これは子供会など地域の活動についても言えることです。地域のつながりというのは、こうした身近な機会に参加していくうちに、いつの間にか深まっていくものではないでしょうか。そのためには、ボランティア活動など、モノやお金に換えられないことに価値を見出せるような意識作りが大切だと思います。そして忘れてならないのが“あいさつ”でしょう。これこそ人とつながる第一歩です。(40代、女性)

○いろいろな集まりに面倒がらずに参加することが大切だと思います。私自身の体験ですが、主人の実家の隣に家を建てて、この地に住み始めて10年足らずですが、最初は誰も顔見知りの人がいませんでしたが、この10年で子供が幼稚園、小学校に入り、地域のおまつり（おみこし）に参加したり、地域の役員をしたりして、いろいろな集まりに参加しました。その結果、今ではたくさんの人達と知り合うことができましたと思います。何事にも積極的に行う気持ちがあると、楽しく参加できると思います。(30代、女性)

○私も、毎日を自宅と職場の往復だけで、地域のことに関心を示さず、世間一

一般的なサラリーマン生活を送っていました。退職後近くの公民館の囲碁クラブに入り、8級から初め、8年でやっと2級までになりました。そこで知り合った友人に誘われて、各種講座や、老人学校（一年制、二年制）を経験し、グループの異性との話し合いも普通に？出来る様になりました。そこで、まず一歩、家の中から外に出ることです。そして、近所の方と大きな声で挨拶をしましょう！！（70代、男性）

○私の住む地域は子供が少ないので、学校に入学するまで、どの家に同じ学年の子がいるかも分かりませんでした。幼稚園もバスでいろいろな方角に別かれていますので、なかなか同じ園でないかぎり、同年代を見つけるのも難しいです。公民館などでもっとたくさん親子で参加できる行事、講習会などがあると出会いが増えるのではと思います。主婦は、子供を通して地域でつながっていくのだと、学校に入学してから強く感じています。学校で近所のお年寄りが昔遊びを教えに来てくれました。来てくれたおじいちゃんにその後会った息子は、親しげに話かけていました。普段すれ違っても家を知らなければお話しするまでなかなかできませんが、きっかけがあると子供達はあっという間につながりを広げることができるのではと思いました。（30代、女性）

○最近、遊び場が少ないのと、不審者による犯罪を恐れて子供が外で遊ぶ機会が少ないので、親も外に出ることがなくなり、近所の人とのコミュニケーションを取ることが少なくなってきました。子供と親・おじいちゃん・おばあちゃんが外に出やすくするために、まず安全な町を作っていくことが大切だと思います。（30代、女性）

○マンションの自治会の入会率の低下が問題となっています。特にオートロックのマンションは、なかなかコミュニケーションが取れません。これらの住民の子供も学校に行っているのでPTAの活動を活用していくことも参加に重要だと思います。2007年問題で、大量のリタイヤする男性が増えます。その人達のやりがいのある場所、仕事を作っていくことで、自治会活動の活性化になると思います。NPOを活用してもよいのではないのでしょうか。地域で不足していることは、行政に頼るばかりではなく、自分達で解決することが大切です。（30代、男性）

○共働き家庭が多くなり女性が苦勞しています。男性の長時間労働を変えるべき。家族皆で夕食を共にすることができること。皆が働きながら町内会の会合等に出席できる。地域の問題を考え行動できる時間的余裕が必要です。定

年退職後の高齢者（男性）の活用を考えるべき。（60代、女性）

- 2004年10月に震災を経験した地域です。地域のつながりの希薄さは以前から感じていましたが、一方では煩わしさが無い分、気楽さも感じていました。しかし、あの大地震と、いつ終わるとも知れない余震の恐怖を体験して以来、意識が変わったように思います。人と人とのつながりの大切さを実感しました。生活が落ち着いてから、被災地域を対象とした座談会等を通して多くの人の話を聴きましたが、震災のダメージは一方では地域の結びつきを強くする大きなきっかけにもなったようです。地域のつながりを深めていくために必要なことは、やはり第一には普段からの挨拶・声かけではないでしょうか。あまりにも当たり前すぎることも知れませんが、被災地域に住んでいるからこそ強く実感することです。自分の周りの人を気遣うという気持ちを持つということも忘れてはならないと思います。（40代、女性）
- 私はアパートというためか町内会の行事にまったくといっていいほど参加することがありません。唯一ゴミの捨て場所出し方といったゴミのこと以外は連絡がきたことがありません。参加したいと思っても連絡（回覧板のような）がないため、聞きたくてもどこで何があるのか分からないため、聞きようがないのです…どうせ引っ越すのでしょう、アパートなのだから…といった、たぶん田舎特有の考えからなのかもしれませんが、できればアパートに住んでいる人も何かお役にたてることがあれば…とかもっと地域の人たちと密に関係を深めたいと思っている人も中にはいることを知っていただけたらうれしいのになあ～と思います。日頃のつきあいがなければ、いざ何かあっても協力してもらえないし協力できないといった感じがします。何か連絡することがあったら、アパートの人もそうでない人も、男も女も、一人暮らしでも二人暮らしであつても大家族でも、みんなに回覧板のようなものでいいから連絡してほしいと思います。（30代、女性）
- 小学校の運動会に地域の運動会を合わせ合同で行っている。防災訓練に中学生が参加。という具合で、なるべく学校生活だけでなく地域の社会生活への参加が大変大事なことと思います。参加することによりおじさん・おばさんを好きになり親しみを覚え、話をしてくれるようになり、親に言えないこと自分の持つ悩み等を少しずつ話してくれ、解決することもあると思います。とにかく接点を持つことが大変大事なことだと思っています。（50代、女性）
- この地域で子育てをし、子ども会の役員をやり、しばらく経て現在町内会の

役員をしている。子ども時代には地域の学校へ行って、近所に友人がいて、子ども会の行事等で地域の年齢の上下の人やその親・町内会の年配の人達とつながりを持つが、その後中学生くらいから、町内とのつながりが殆どなくなる。結婚して所帯を持つ頃までは、ゴミ出しを初め町内の当番や役員になることもなく、若い人を対象にした行事なども殆どない。もう少しこの若い世代を地域に関わらせることができないかと思う。「地域に通う大学生グループが、小学生の下校時に通学路に立って子ども達を見守る」という記事が新聞に載っていたが、例えばこのように地域と大学・会社などが協力してできることがあればよいと思う。(40代、女性)

○あまり深めたいと思わない。全員が深めることがよいと思わない。私はとくにそう思う。ハッキリいって「おせっかい」という部分が大々にしてある。つながりは、ほどほどが大切と思っている。だから今のままで十分だと思う。質問が一方的すぎる。行政がこういうことをアンケートすることはおかしい。行政に何をしてほしいか、何をのぞむかということではないか。基本的には「自分のことは自分で行う」をモットーに各自生活すべきです。他人にたよらない、自立が大切だと思う。祭り＝楽しいですか、参加したいですか、運動会＝楽しいですか、参加したいですか、私はそうは思いません。中には楽しいと思う人がいるかも知れません。おつき合いと思って仕方なく参加しています。本当は迷惑だと思っています。大切な休日を潰されて憂鬱になります。好きな人たちには理解してもらえません。その年の役員によっていや～な会合にもなります。仲間どうし地域を越えてを提案します。狭い町内よりも大きな視野でつながりをもちたい。(40代、女性)

○プライバシーを重視されがちな時代に入りましたが、やはり周りの環境とのつながり無くして、日々の生活は出来ないと思う。近隣住人を知ることも大切だが、自らの家庭の存在を周りに知ってもらうことも大切。独居世帯(老人)から核家庭など、家族としての形成人数が少ない世帯は、それだけ、地域と係わるチャンスが少ない。災害時に協力体制がないと、逃げ遅れる原因にもなる。こういった状況に陥らないよう、転入転出等を管理している役所から、自治会や町内会の情報を発信していけばよいのではないかと？自治会や町内会に参加せずとも、地域の一住人として、積極的に地域へ係わっていくこと。地域住人が集まる祭りなどに顔を出すだけでも、互いの面識により様々な問題回避につながると思う。(30代、女性)

- 昔と違い、隣近所の子供に声をかけては、いけないというような風潮があるので、つながりにくい。子供が悪いことをしていても、しかってはいけない。ウチの子にはかまわないで下さいという親が沢山いるので、子供から大人へというつながりが全くありません。大人が子供を見守る、しかる、ほめる、この自然の流れが崩れていると思います。大人だけのつながりも大事ですが、子供を交えてのつながりをもっと強化していくのが、いいと思います。(40代、女性)
- 地域のリーダーの育成が必要だと思います。PTAやボランティア活動などでの経験を活かし、地域で人材を育てていくことが大事だと思います。(50代、女性)
- 橋や壁等のラクガキを放置しておく、その地域の治安が乱れるという。したがって、私の街では「グリーンデー」というものが設けられ、付近の住民によって、定期的に清掃活動が行われている。これは、情報交換の場となっており、地域のつながりを深める一助となっているように思われる。これからは、高齢者が増加していくことが考えられるので、そういった屋外での集まりに参加できない人のための情報交換の場を設ける必要があるだろう。そのためにも、地域のシルバーセンター等、活発な高齢者による橋渡しが有効であると思う。(20代、男性)
- 地域のつながりだけでなく、家族のきずなさえ希薄化しているので、その原因について考える必要があると思います。多くの方は、生活することに圧力を感じ、ストレスをかかえていますから、自分自身のことで精一杯になり、利己的になっているのではないのでしょうか。自分さえよければよいという利己的な考え方を利他的な考えへと変えて行くのは、簡単なことではありません。しかし、変えて行かなければ家族すら希薄化して行くのを、止めることはできないと考えます。まず、家族のきずなを強めるためにコミュニケーションをすることです。TVやインターネットなど個人で時間を過ごすことを減らし、家族の時間を作り、家族を立て直してから、家族ぐるみで地域の自然などで家族が触れ合う楽しい行事などを企画し、参加して行くなどすることができるとは思います。(30代、女性)
- 地域のつながりは大変必要なことですが、街の自治会でも充分なつながりは持っているし、街でのおつきあいの方が、個々の家庭的事情などに深く入り込むような失礼なことはなく、より理想的なつながりだと思えます。これか

らの田舎の自治会のあり方は、地域の活性化を考える上でもっと改良の余地があると思います。昔の慣習に囚われすぎて、若い人達が帰って来づらく、また馴染みにくい状態ではいけないのです。(50代、女性)

○まず家族のつながりが一番だと思います。家族がバラバラで生活していたら地域のつながりもないと思います。親が子供の生活をよく見ていると自然と気がつくことができ、個人では対応できないことなどに、どうしたらいいかと思い、そこからいろいろ勉強して地域の人々と協力していかないとダメなことがあると解ってくると思います。昔のように井戸端会議のようなことが大事なように思います。(50代、女性)

○私の住む町内には公園がなく、また空地も一つもありません。子供や老人が集う場所がないのがまず問題あります。子供や老人がいつでも集える場所があれば、人と交わりたい人は自然と集まってくると思います。また、地域の行事も大きすぎて、地域の人と触れ合いがあまりできない気がします。家族の次に大きな社会の地域なのに、顔や名前を知らないで何もつながれないですね。団地全体というよりも、まず隣り近所や一丁目・二丁目といったまとまりで集まれる場所が必要だと思います。時間のある主婦や定年を迎えた人や元気なお年寄りがボランティアでできることをはじめようと声をかけあう場所が欲しいです。みんな忙しい方ばかりなのですが、中には私のように時間のある方もいらっしゃるって、何か社会のお役に立ちたいとお世話やきもいるかと思うので、その人達が語れる場を作るのが、まずはじめの一歩かなと思います。(30代、女性)

○私の住む町は、数年前に有志が「日本一挨拶する町づくりの会」を発足させました。ここ数年でその主旨に賛同する会員もだいぶ増え、活動の輪も着実に広がっています(テレビでも紹介されました)。通勤、退勤、登下校時に「おはよう、行ってらっしゃい、気をつけて、さようなら、お帰りなさい、ご苦労様」の明るい声が飛びかいます。(40代、女性)

(別紙) 町内会・自治会の世帯数と加入率の分布

(N=1716)

加入世帯数		加入率	
加入世帯数区分	割合 (%)	加入率区分	割合 (%)
10 世帯未満	0.6	10%未満	0.2
20 世帯未満	3.3	20%未満	0.2
30 世帯未満	3.3	30%未満	0.6
40 世帯未満	2.7	40%未満	0.8
50 世帯未満	2.3	50%未満	0.8
60 世帯未満	4.1	60%未満	2.4
70 世帯未満	2.7	70%未満	2.6
80 世帯未満	2.2	80%未満	5.6
90 世帯未満	3.3	90%未満	11.0
100 世帯未満	1.7	100%未満	36.5
120 世帯未満	5.8	100%	28.8
150 世帯未満	5.0	無回答	10.5
170 世帯未満	4.1		
200 世帯未満	2.4		
250 世帯未満	7.8		
270 世帯未満	2.4		
300 世帯未満	1.1		
350 世帯未満	5.2		
400 世帯未満	2.9		
500 世帯未満	4.2		
700 世帯未満	6.6		
1000 世帯未満	4.1		
1500 世帯未満	3.8		
2000 世帯未満	1.6		
3000 世帯未満	2.0		
5000 世帯未満	1.3		
10000 世帯未満	0.6		
10000 世帯以上	0.7		
無回答	12.0		